



理事会から

「あいちトリエンナーレ2016」も前回同様、多くの会場で盛り上がりを見せています。友の会でも「著名な講師を招いての講座」「若手作家との歓談」「岐阜方面の美術館を巡るバスツアー」などの企画を進めています。

最近メディアでの情報提供を活発に行っております。ぜひご覧ください。(友の会会長 小林克敏)

メール

入会時にメールアドレスを登録した方に配信いたします。アンケート集計や資料発送などのお手伝いをお願いするメールも配信しています。

✉ tomonokai@aac.pref.aichi.jp

ホームページ

イベントや講座などのお知らせや、過去のイベントレポートをご紹介します。創刊からの「空中回廊」のバックナンバーも見ることができます。また、HP上で講座やイベントの申込ができるようになりました。



愛知県美術館友の会 

www-art.aac.pref.aichi.jp

ツイッター

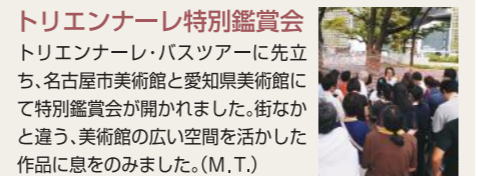
ツイッターでも情報配信しています。写真を変えながらリアルタイムでの情報をお伝えしています。



[@apmoafriends](https://twitter.com/apmoafriends)

第43号 友の会活動紹介 2016年4月～2016年9月

- 4月 黄金伝説展
黄金伝説展 特別鑑賞会
他館鑑賞会(名古屋市博物館)
- 5月 友の会総会
講演会(江本菜穂子氏)
他館鑑賞会(豊田市美術館)
- 6月 他館鑑賞会(名古屋市美術館)
- 7月 なし
- 8月 あいちトリエンナーレ2016
トリエンナーレ特別鑑賞会(名古屋市内会場)
- 9月 トリエンナーレ・バスツアー★
★…中面でご紹介しています。



定例活動

所蔵品管理	モニター	発送	受付[懇]	広報	ホームページ	理事会
23回	2回	2回	7回	4回	随時更新	5回

友の会の行事予定

楽しいイベントをたくさん計画しています。友の会の仲間と美術を楽しみましょう!

- 11月 友の会講座(木村コレクション)
アートカフェvol.2
全館コレクション展 特別鑑賞会
- 12月 日帰りバスツアー
(岐阜県現代陶芸美術館ほか)
- 2017 1月 アートカフェvol.3(予定)
友の会講座(西洋美術)
ゴッホとゴーギャン展特別鑑賞会
- 2月 友の会講座(日本美術)
- 3月 友の会講座(日本美術)

今後のイベント詳細につきましては、ホームページにて随時ご案内いたします。

これからの展覧会のご案内

虹のキャラヴァンサライ
あいちトリエンナーレ2016
8.11→10.23

コレクション企画「日本で洋画、どこまで洋画？」
—高橋由一から現代画家まで—
開催 2016年11月18日(金)～12月18日(日)

ゴッホと
ゴーギャン展
2017年1月3日(火)
～3月20日(月・祝)
Van Gogh and Gauguin Reality and Imagination

- 編集 松下智子/大矢真美代/富永晃一/喜田泉
小林克敏/本田良子/森健次
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2016年10月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知県美術館内(愛知芸術文化センター10階)

tel.052-971-5511(代)

fax.052-971-5617

✉ tomonokai@aac.pref.aichi.jp

愛知県美術館友の会 

愛知県美術館ホームページ
www-art.aac.pref.aichi.jp

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は下記までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しくご紹介しております。ぜひご覧ください。

▶ 愛知県美術館10階受付

▶ 友の会事務局(火・ホ・土10:00～16:00)

tel.052-971-5511(代)

編集後記

トリエンナーレは全会場を制覇することができました!今回はエンターテインメント性が強く面白かったです。

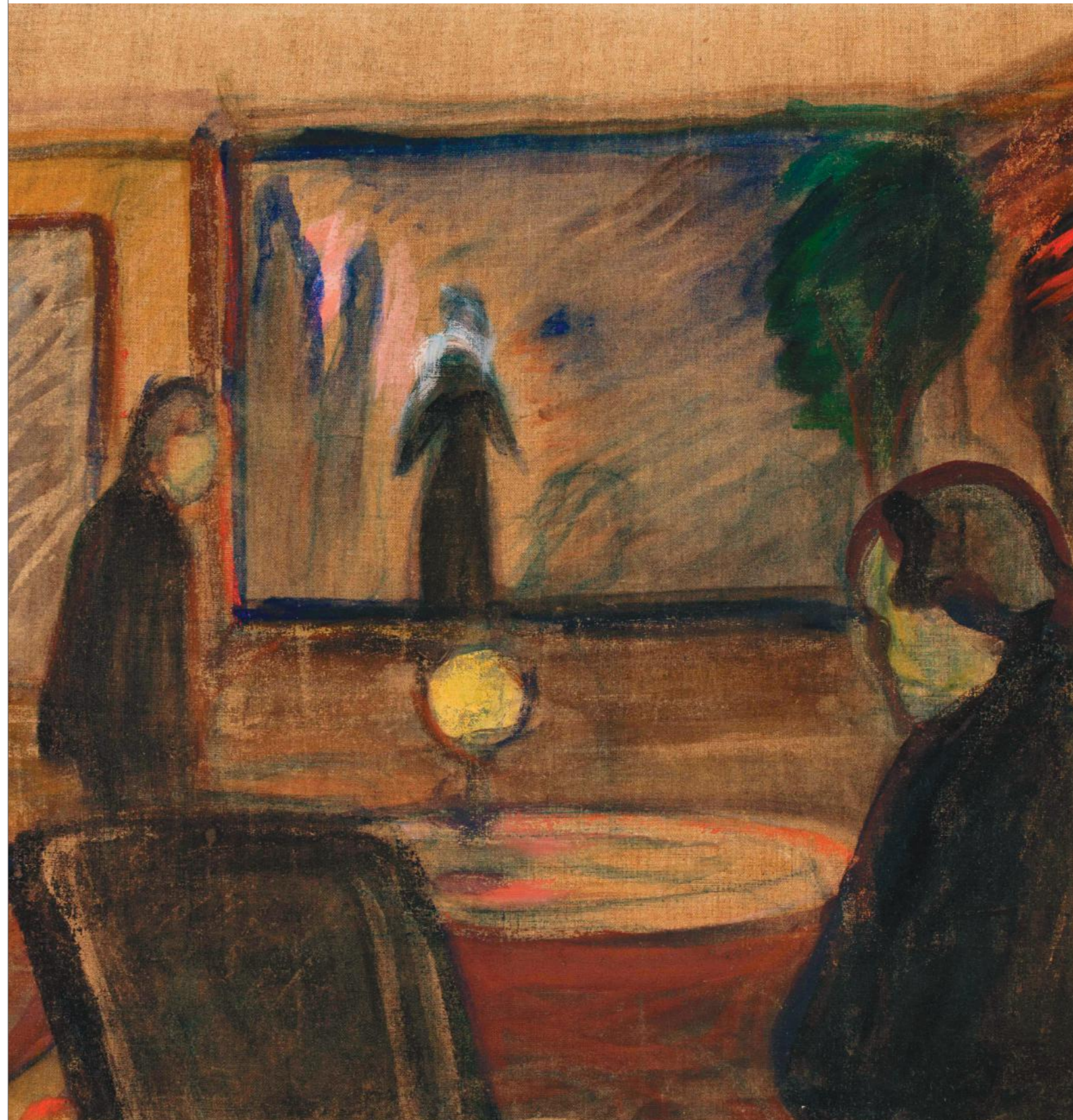
オペラ『魔笛』では、目の前で「夜の女王の aria」を聴いて鳥肌が立ちました!(RH)



愛知県美術館友の会 会報 第43号

空中回廊

コレクション展「日本で洋画、どこまで洋画?—高橋由一から現代画家まで—」
会員のひろば:—泊ツアーレポート/トリエンナーレ特集
次回予告「ゴッホとゴーギャン展」/新学芸員の顔
愛知県美術館コレクションから「ムンク『イブセン』幽霊」からの一場面」



エドヴァルド・ムンク『イブセン「幽霊」からの一場面』(部分) 1906年

日本で洋画、どこまで洋画？

—高橋由一から現代画家まで—

2016年11月18日(金) - 12月18日(日) [27日間]

明治期の半ばに「日本画」と対になるように、「洋画」という言葉と作品が生まれました。その後、世界では現代日本の若手作家による「現代アート」が高く評価されるようになります。それらは「洋画」とはどの様に違うのでしょうか。担当の平瀬学芸員にインタビューしました。

■ 今回の展覧会の主な特徴とはどのようなところでしょうか？

「洋画」といってもみなさんは、それほど違和感や疑問を抱くことなく接していらっしゃるかと思います。けれどもよく考えてみると、不思議ですね。日本で「洋画」とはなぜなのか、東洋画は洋画ではないのか、日本画とはどこが違うのか、油絵のことなのか…。

愛知県美術館のコレクションにも洋画と分類されるものがたくさんあります。今回は時代区分や流派に沿って美術史的に追っていくというよりも「そもそも洋画ってなんなのだろう」という、素朴な視点から作品を見ていこうと思っています。

■ 具体的なことをもう少し聞かせてください

すでに江戸期から、蘭学や洋学への関心をもとに、透視法や陰影法そして油絵に好奇心を寄せる人物もありました(同時開催の「うえからながめる」の渡辺華山もその一人)。

その後油絵は国益のための実用の学として取り入れられました。そしてその迫真性が大衆の驚きを誘い、人気を博します。ところが国粹主義の台頭で、旧来の美術が日本画として統合され、油絵は主流から外れます。そうして正当な美術として強化された「日本画」概念に対するものとして「西洋画」が浮上し、現代に至る「洋画」へとつながっていきます。「邦画」があって「洋画」である映画と同様、「日本画」があるからこそ「洋画」が定着したといえますね。それが現代までどのように変遷してきたのかということがテーマです。



高橋由一(不忍池) 1880年頃 油彩/画布



河野通勢(自画像) 1917年 油彩/画布

■ 見所はどこですか？

洋画と一言でいってもいろんな紆余曲折を経てきています。日本でなければ生まれなかった油絵もあらわれたこと。そして時代が進むにつれ、洋画かそうではないかはあいまいになってきたかもしれませんが、そこがえって、現代的に多様な表現を可能としていることなどを見て取っていただければと思います。

■ どのような構成になっているのでしょうか？

今回の展覧会では洋画の幕開けから現代までを展示していきます。まず最初に、高橋由一や愛知の洋画の草分けの存在の野崎華年など、明治以降の油彩画を見ていきます。

その次の世代は、実際にヨーロッパで直接学ぶ人たちは。西洋スタイルを具現した作品とともに、そこに飽き足らずに生み出された、日本的な洋画も紹介します。

そして戦後になると画壇が復活し、洋画が隆盛を誇ります。同時に、時代の変化に呼応して制作された前衛的な絵画が、パラレルに存立する様子を見ていきます。

最後には「どこまで洋画？」にふさわしく、洋画か日本画かというような境界を飛び越えて、新鮮な表現を行う作家たちの作品をご覧ください。



藤城凡子
(Casper's
そして月と地球)
2006年
油彩/画布

■ 特にこだわったところはありますか？

洋画の名作展のようになってしまうと、見えるものも見えなくなってしまうのではないかと思います、気を付けています(といっても名作を集めていないという意味ではないです)。

また、同じ作家の異なる時期の作品を比べたり、日本画とも比べることで、洋画の特徴が少しでも浮き上がってくるように、とは思っています。

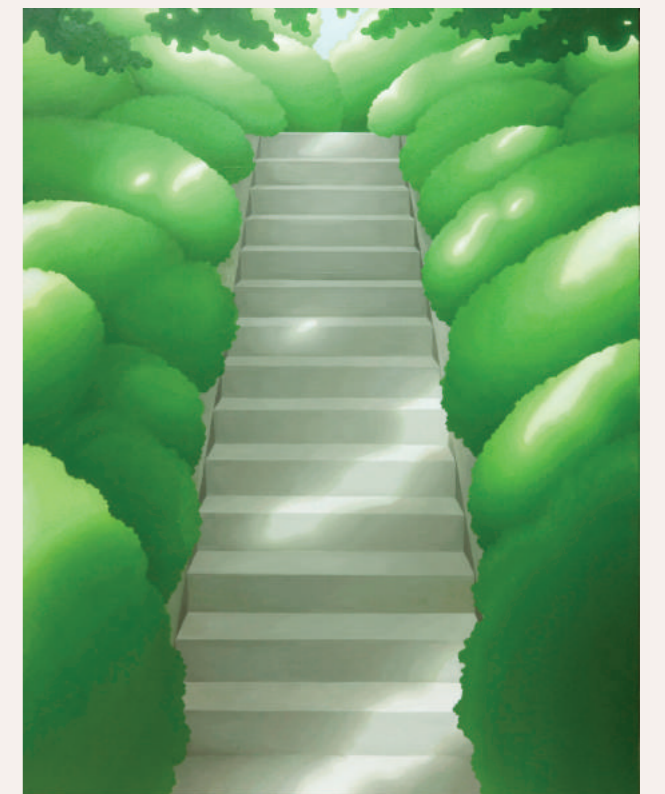
■ これはおすすめという作品はありますか？

個々の作品ばかりを見せるコンセプトではない展示ですが、あえていえば基本中の基本の高橋由一の2点はあらためてよく見てほしいですね。それから林武の作品もこの展示の文脈では面白いかなと思います。

平瀬学芸員、お忙しいところをありがとうございました。



北川民次(砂の工場) 1959年 油彩/画布



小林孝亘(Stairs) 2008年 油彩/画布



安井曾太郎(承徳廟) 1938年 油彩/画布

1day

2016年

2月18日(木)

主なみどころ

- ▶ 香川県立東山魁夷せとうち美術館
- ▶ 丸亀市立猪熊弦一郎美術館
- ▶ 名物讃岐うどん
- ▶ イサム・ノグチ庭園美術館



新幹線の車内ではガイドブックなどを見て旅の期待が高まる。

岡山駅で添乗員さんに出迎えられる、バスツアー開始。

瀬戸大橋を渡ってすぐ「香川県立東山魁夷せとうち美術館」に到着。情感豊かな東山の作品や谷口吉生の美しい建築、美しい瀬戸内の風景を堪能した。

次に「丸亀市立猪熊弦一郎美術館」へ。ここも谷口吉生らしさが随所に見られる。

学芸員さんから企画展「愛すべき世界展」の説明を拝聴。森村泰昌の映像

作品や、県美での「これからの写真展」で出品した鷹野隆大氏のひと味があった風景作品を観る。

昼食はセルフでもボリューム満点の讃岐うどんで満腹に。

次は完全予約制の「イサム・ノグチ庭園美術館」。期待に違わず、作品群はもとより丘や敷地全部が作品ともいえる素敵な美術館だった。

その後、欲張って栗林公園へ。短時間でも夕暮れの見学は印象的であった。

夕食は多くの方といっしょに会食。楽しく話をしながら飲んだり食べたりで、大満足の日目だった。



1日目行程表

- 7:50 JR名古屋駅 集合
- 8:12 新幹線のぞみ5号発
- 9:51 JR岡山駅着
- 10:05 岡山駅よりバス出発
- 11:15 香川県立東山魁夷せとうち美術館
- 11:50 移動(バス)
- 12:20 丸亀市立猪熊弦一郎美術館
- 13:15 移動(バス)
- 13:20 昼食(讃岐うどん)
- 13:45 移動(バス)
- 15:00 イサム・ノグチ庭園美術館
- 16:00 移動(バス)
- 16:45 高松市ホテル着
- 19:00 夕食(活魚「小松」)

初企画!

友の会・一泊ツアー体験レポート

友の会初の宿泊付きバスツアーを開催! 計27名の方にご参加頂き、大盛況に終わる事ができました。好天に恵まれ、瀬戸内海の美しい景色の中でアートを堪能した様子をお届けします。

会員のひろば

2day

2016年

2月19日(金)

主なみどころ

- ▶ 直島(フェリー移動)
- ▶ 地中美術館
- ▶ 地中カフェ
- ▶ 李禹煥美術館
- ▶ ベネッセハウスミュージアム



二日目も好天に恵まれ、フェリーの甲板で美しい瀬戸内海をながめつつ直島に向かう。バスで美術館まで連れて行ってくれるのは実にありがたい。人数が多いため2チームに分かれての見学。安藤忠雄設計の「地中美術館」ではすてきなユニフォームのガイドさんの説明を聞いてから自由鑑賞。モネ、タレル、デ=マリアの作品を建築とともに鑑賞。自分は昼食時間を少し減らしてじっくり鑑賞。モネの庭も建物もレストランも、すべて手入れされた極上の空間を味わうことができた。次

は「李禹煥美術館」。青空に高く伸びる石柱が美しい。分厚い鉄板や大きな石など、ものの存在自体が芸術としてそこにあった。

「ベネッセハウスミュージアム」でも大好きな現代美術をわくわくして鑑賞したが、時間はすぐに過ぎて集合時間。港でフェリーを待つ間に、草間弥生の赤黒カボチャや直島銭湯などを見て楽しむ。船で航行すると世俗から少し離れられるのかもしれない。今回のツアー担当の方々に感謝しつつ、新幹線の客となった。



2日目行程表

- 7:30 ホテルロビー 集合
- 7:45 ホテル出発
- 8:21 高松港フェリー発
- 9:02 直島(宮浦港)着
- 9:20 直島(宮浦港)発
- 10:00 地中美術館
- 11:20 昼食(地中カフェ)
- 12:00 移動(バス)
- 12:30 李禹煥美術館
- 13:10 移動(徒歩)
- 13:25 ベネッセハウスミュージアム
- 14:20 移動(バス)
- 14:40 直島(宮浦港)着
- 14:55 直島(宮浦港)フェリー発
- 15:15 宇野港着
- 15:30 宇野港発
- 16:30 岡山駅着、解散

プレス関係者限定!

トリエンナーレバスツアー取材レポート

開催日前日に行われたプレス向けバスツアーの取材模様をお伝えします!



8月11日から開催のあいちトリエンナーレに先駆けて、10日にオープニングパーティーが行なわれました。

三年に一度開催される都市型の芸術祭においては、世界的な規模だそうです。

今回の特徴としては、現代美術だけに限らず幅広いジャンルを展開することによって、多くの賑わいを創出させていることです。

当日は午前中に記者会見が行われ、その後バスツアーに参加して、一般より一日早く会場見学をさせていただきました。

10階をチーフ・キュレーターの拝戸さん、8階を中村史子学芸員のガイドを聞きながら、初め

での会場に驚きを隠せません。オープニングとあって、たくさんの作家さんたちが来場していたのも嬉しかったです。

ツアーのラストは、ダニ・リマのパフォーミングアーツのゲネプロ鑑賞。その後東急ホテルで、オープニングレセプションが開催されました。

大村県知事河村市長はじめ、関係者の祝辞が次々と述べられたあと、アーティストのツクロッカ・プロデュースによる開幕式「光のキャラバンショー」で、会場は大盛り上がり。

盛大なパーティーとなりました。

今回のトリエンナーレも、きっと大成功をおさめるに違いないと思います。

行程表

2016年8月10日(水)

- 10:30 愛知県美術館にて記者会見
- 11:20 愛知県美術館会場鑑賞
- 13:30 バス内にて昼食
- 13:45 名古屋市美術館会場鑑賞
- 14:30 損保ジャパン内大巻伸嗣作品鑑賞
- 15:00 長者町会場鑑賞
- 15:30 芸術文化センターにてDani LIMA公演鑑賞、トークショー参加
- 18:30 東急ホテルにてレセプションパーティー

友の会 会員限定!

拝戸雅彦チーフ・キュレーター&副田一穂学芸員と巡る

トリエンナーレバスツアー体験レポート



「アートがわかる」ってどういうこと?と思いつつ、午前は分刻みのアクロバットの予定をこなします。バス2台・計72名の参加者を4つのグループに分け石原邸、東岡崎駅ビル、岡崎シビコを巡りました。

「アート」にあてられて脳がぐったりしたところで、岡崎ニューグランドホテル9階レストラン「パリ」にて昼食をいただきます。ピュッフェスタイルで1時間半ありましたから、皆さんゆっくり過ごされました。近くの岡崎表屋に

行った方も多いようです。

午後は豊橋会場。PLAT会場で集合写真を撮り、開発ビル(10階に、前号でご紹介した石田尚志さんの作品がありましたね…)での会場レクチャーを受けた後は自由行動でした。

拝戸氏や副田学芸員、特別参加の古田浩俊副館長から専門的なことを伺う一方で、「いやあ…」「よかった!」「〇〇ってことよね!」等、会員同士で気軽に感想を述べ合える。今回は「よかった」より「楽しんだ」アートツアーでした。

行程表

2016年9月1日(木)

- 9:10 芸術文化センター発
- 10:00 岡崎会場鑑賞(約2時間)
- 12:00 岡崎ニューグランドホテルにて昼食(ピュッフェ)
- 14:30 豊橋会場鑑賞(約2時間30分)
- 18:15 芸術文化センター着

ゴッホと ゴーギャン展

Van Gogh and Gauguin Reality and Imagination

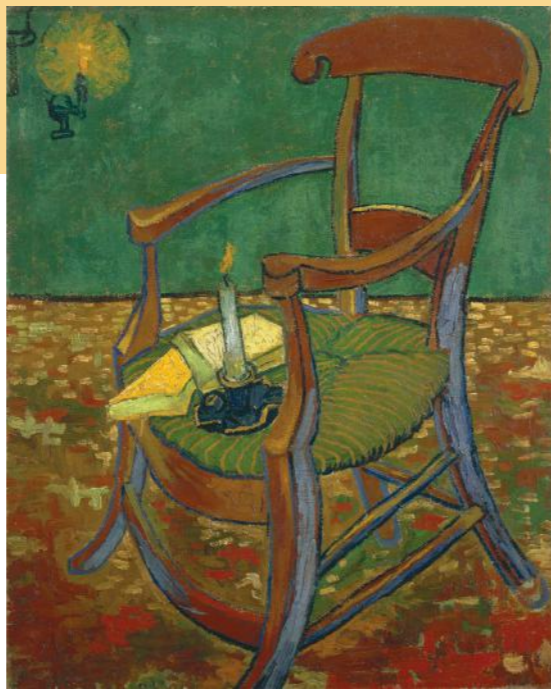
2017年1月3日(火) - 3月20日(月・祝)

ファン・ゴッホとゴーギャンが南仏のアルで共同生活を送り、その果てにファン・ゴッホが耳切り事件を起こしたエピソードはあまりにも有名です。しかし、これで彼らの関係が破綻したわけではなく、友情はゴッホ亡き後まで続きます。

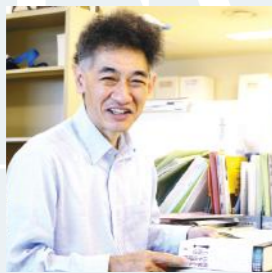
その友情を象徴する作品に、ゴーギャンが晩年にタヒチで描いた《肘掛け椅子のひまわり》があります。かつて自身がアルルで使用していた肘掛け椅子と、友人のお気に入りのモチーフであるひま

わりとを組み合わせることで、二人の友情を表明しています。ファン・ゴッホもまた、アルルでの共同生活の時期に、ゴーギャンの面影を投影した肘掛け椅子を作品に描きました。

「ゴッホとゴーギャン展」では、上に挙げた作品に見られるように堅い友情で結ばれながらも、異なる画家から様々な影響を受け、時には互いに反発や批判を抱きつつ、芸術の高みを目指す二人の画家の歩みをご覧いただけることでしょう。(森美樹)



フィンセント・ファン・ゴッホ(ゴーギャンの椅子)
1888年 油彩、カンヴァス 90.5×72.7cm
ファン・ゴッホ美術館(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)
©Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)



平瀬礼太 主任学芸員
— Reita Hirase —

今年の4月1日付で美術課に配属になりました平瀬です。ちなみに下の名前は「礼太」と書いて「れいた」と読みます。ちょっと珍しいので小学校のころは「0点」などと、中学で英語を習うと「遅い(later)」などと呼ばれることもありました。以前は兵庫県の姫路市立美術館に勤務し、姫路市教育委員会生涯学習課に1年間在籍した後に名古屋市民となることとなりました。高校までは千葉県で過ごし、大学~就職と関西に長く住みましたが、この度初めてまんなかの東海地方で暮らすこととなって、土地による違いをいろいろと楽しんでいます。

友の会の皆様には日常的に様々なご協力をいただいていると聞いております。木村定三コレクションや藤井達吉コレクションに私も関わりますので、サポート部会の方々にもいろいろ教えていただくこととなると思います。アホなことを言ってご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒お手柔らかに願います。(平瀬礼太)

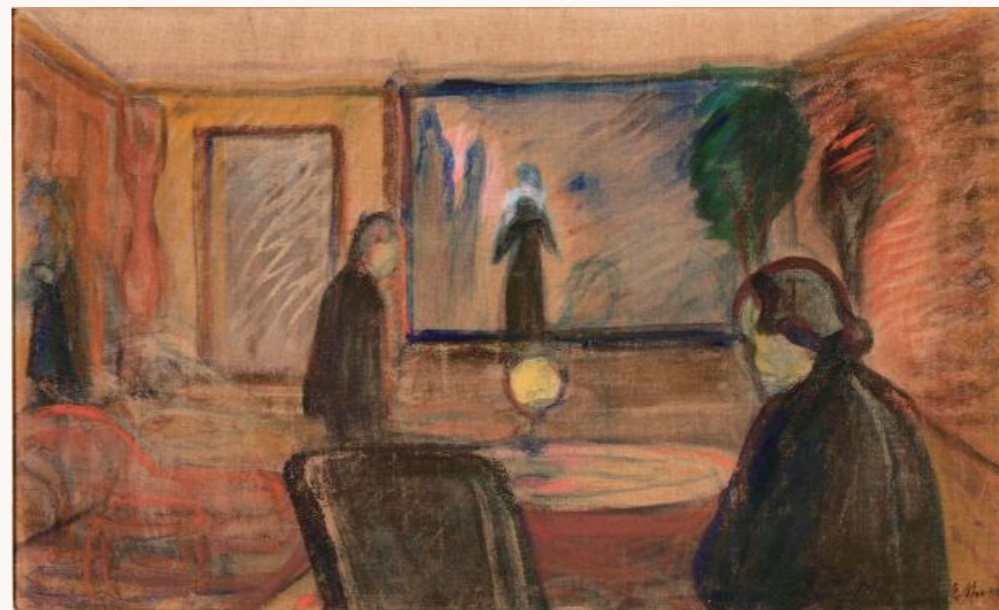
新学芸員の紹介



栗名彩香 学芸員
— Ayaka Kuwana —

はじめまして。4月から愛知県美術館で働いています。栗名彩香と申します。名古屋生まれ、知立育ちの愛知人です。私は保存担当学芸員として着任いたしました。この3月まで、兵庫県立美術館の保存・修復グループに勤務していたのですが、愛知県美術館の友の会・所蔵品管理サポート部会のみなさまの御活動はたいへん有名で、兵庫でも「見習わなければいけないね」と話題に上がることが度々ありました。

美術館、そして所蔵品へ惜しみない愛情を注いでくださっているみなさまと一緒に活動ができることを楽しみにしておりますし、保存を担当させていただく私にとっては頼もしい存在でもあります。これからさまざまな場面でみなさまに支えていただくことになると思いますが、どうぞよろしく願いたします。また、地元・愛知を愛しておりますが、しばらく離れていたもので、最新の愛知情報も聞かせてください。(栗名彩香)



エドヴァルド・ムンク《イブセン『幽霊』からの一場面》
1906年 テンペラ、画布 45.7×76.5cm

当館コレクションに新たに加わった、 「日本で稀少なムンク作品」、次回コレクション展で公開予定。

このたび個人からの寄附金により、《叫び》(1893年)で有名なムンクの絵画を購入することができました。ノルウェー生まれのムンク(1863-1944)は、1889年パリに留学してゴーギャンやファン・ゴッホなどの作品に共感しましたが、家族を次々と亡くして死を身近に感じていた彼は、翌1890年の手帳に「もうこれからは室内画や、本を読んでいる人物、編み物をしている女などは描かない。呼吸し、感じ、苦しみ、愛する、生き生きとした人間を描くのだ。」と記しています。その後ムンクは流動的にデフォルメされた形態や深々とした色彩によって、生と死、愛と官能、不安や苦悩などを象徴的に描き出し、表現主義の先駆者と評価されています。

この作品は、『人形の家』などで知られるノルウェーの劇作家イブセンの三幕劇『幽霊』(1881年)に基づいています。この戯曲はある地方名士の未亡人が、隠していた亡夫の不行状による因果や人々を縛る因習などによって、息子とともに破滅に向かう悲劇です。1905年にベルリン・ドイツ座の監督となったマックス・ラインハルトは、隣接する建物を心理的な近代演劇用の小劇場に改装することとし、1906年秋の柿落し演目『幽霊』の舞台全体の雰囲気を決める構想画をムンクに依頼しました。何枚も構想画を描き進める中で

ムンクは、イブセンが指定した陰鬱なフィヨルド風景に面するガラス窓を大きくとる一方、左側の窓をなくして閉塞感を強め、左奥には時間の変化を暗示する大時計を加えるといった変更を行い、家具や衣装には重苦しい暗色を用いました。この絵は第二幕終わりから第三幕初めの夜の場面で、テーブル上のランプに照らされた顔の黄緑色が不安を誘います。窓の外では、亡夫の名を冠して翌日に開院式を控えながら全焼した孤児院の残り火が光っています。前・中・後景に離れて配置された人物たちはそれぞれ、これから明かされる秘密や苦悩を抱えてうつむいています。無言の人々が別々の方向を向いて思いに沈む、という設定や構図はムンクの多くの作品に見られる特徴的な表現です。

ムンクは気に入った作品を売らず、残った全作品と資料を遺贈されたオスロ市のムンク美術館が彼の絵画の半数以上を所蔵しているため、彼の絵が市場に出る機会は少なく、日本の美術館には版画がある程度所蔵されているものの、絵画は3点しかありませんでした。当館の代表に加わるこの作品は、1月3日からの「ゴッホとゴーギャン展」と同会期のコレクション展で初公開予定です。(美術課長 深山孝彰)

エドヴァルド・ムンク 《イブセン『幽霊』からの一場面》



学芸員の横顔
深山孝彰 Takaki Miyama
大学ではドイツ文学から美術史に転向し
日本彫刻史(仏像)専攻。
2013年の「田止志孝展」続く
来年の「長〇音〇展」準備で焦っています。